

# ナラ山の異変にご注意を！

## 一 はじめに

昭和50年代以降、日本海側の都道府県を中心に、「カシノナガキクイムシ」によるミズナラやコナラの大枯死被害（以下「ナラ枯れ」）が大きな問題となっています。また、

近年では、山形県や福島県、山梨県、長野県などで「カツラマルカイガラムシ」などのカイガラムシ類によるコナラ等の被害が、発生しています。「ナラ枯れ」については平成20年6月号で詳しくご紹介したとおり）

今回は、岩手県における発生状況と被害の見分け方について紹介します。

## 二 岩手県の被害発生状況

現在まで、岩手県において「ナラ枯れ」被害は確認されていません。

東北では山形県と福島県、秋田県で被害が発生しており、今後の動向を注視していかなければなりません。

カイガラムシ類の被害は、「カツラマルカイガラムシ」によるコナラ等への被害が山形県や福島県、長野県などで発生しています。

昨年、岩手県でもカイガラムシに

よるコナラ等への被害が確認されました。前述のカツラマルカイガラムシとは別種の「ナラフサカイガラムシ」という、これまでに国内で被害報告のほとんど無い種類のものでした。

被害は、花巻市、矢巾町、紫波町等ですが、他市町村でも被害が発生している可能性があります。

被害は主に、低地（平野部）のコナラ林で発生しています。

## 三 被害の特徴

「ナラ枯れ」も「カイガラムシ被害」も、7～8月頃から「葉が茶色に萎（しお）れる」という外観上の異変が見られます。ナラ枯れは全葉が褐色に萎れるのに対し、カイガラムシ被害は部分的に萎れる場合が多く見られます。

さらに、それぞれの被害の特徴を述べます。

「ナラ枯れ」の場合は、「カシノナガキクイムシ」が排出したオガクズ状の木屑が根元に積もり（写真1）、木の幹には成虫が木の内部に入り込んだ2㎜程度の穴が多数見つかります。

また、「葉の萎れ」も木全体が褐色となるような全身的な症状になる場合が多く見られます。

一方、カイガラムシ類では、葉が変色した枝等に写真2のような小さな



写真1 ナラ枯れ根元の木くず

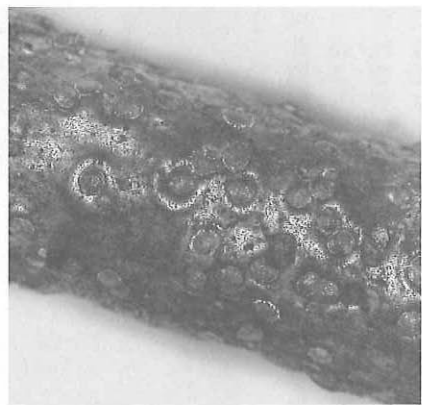


写真2 ナラフサカイガラムシの拡大画像



写真3 カイガラムシ寄生木の枝の特徴

な虫が多数付着しているのが確認できるはず。 「葉の萎れ」方としては部分的なものから全身的なものまで様々です。

## 四 おわりに

現在、様々な研究機関が、「ナラ枯れ」や「カイガラムシ被害」の防除方法に関する研究を進めており、一部は、現場での適用試験が始まっています。

どのような防除方法においても、被害の初期段階で集中的に行うことが最も効果的です。そのためには、森林・林業に関わる方々の「たくさんの目」で被害の早期発見に努めることが重要です。

今回ご紹介したような症状のナラ類がありましたら、林業技術センターや県内各地の農林部、林務部までお知らせいただきますようお願いいたします。

林業技術センター

主任専門研究員 小澤 洋一

写真1の提供 独立行政法人

森林総合研究所関西支所